

判者

大和守義忠朝旨

歌撰人

左

相摸

右

侍從乳母

此本以西行上人自笔如書字之少之雖有不足審
更任如寫年重而此類本可考之而已

祐子内親王家秋合

永承五年六月五日於賀陽院一官涉方有秋合

夏兼白用白殿下相方男女各六人賜額賴通楊郭合獻

秋合以西液殿为上連部秋合有盈盛儲夏雖在茶

議引以及今日盖为相當庚申也右教通不期而會

内賴宗大臣中官大史源大納師房云左隆國督右經長大資通辨

式部大補資業各在座大旨以下大納言以聽不

及廣席坐席惟窄仍殿上侍長不得進從秋頃之官

女房小舟不獻秋入香壺管自御簾中出之便擬

文臺欵以浪彫透厚草以描繪水精色之珠玉为花

雲母爐香曰散蘭麝漫惹墨側漢立沈香右洲漢上
立浪鶴一雙為箸匙臺兩鶴翼上墨郭公無款二首
又浪心第雕野水施殿下中宮亮兼房朝長令傳
後素其重書櫻花款
取墨寢殿南廂西戶前女房所獻哥墨管上各書彩
牋或以題目趣施畫圖或以金銀泥成文彩風流之
美不可靚樓男以白色紙書之兼房朝長又右管圓
施下款
座置御簾前為丸右講師等座左講師右大弁
右講師左大弁盃酌
數巡之後令講和歌有儀以女房為丸方以男房為右
方夜色照輝於簾前香氣發越於戶外乃縱觀之好
不俗眼所窺劫哥者依上候南簀子數觀會有限感
晴難抑仍由大旨評定和可源大納之注勝負依無

籌判也象外之勝遊未曾有者歟

一番橋

丸勝

典侍

吹風之志丸勝橋之丸丸勝丸勝丸勝

右

式部大納資業

君守心丸勝丸勝丸勝丸勝丸勝

二番

丸

侍從

丸勝丸勝丸勝丸勝丸勝丸勝

右橋

中宮亮兼房朝長

七葉小のちの梅の白ひうねをとの事一は月を志す

三番

左 搦

伊勢大輔

君のよきとふとゆると梅の白ひうねをとの事一は月を志す

右

讃波守家経朝臣

さしめな成らうと梅の白ひうねをとの事一は月を志す

四番

九 搦

出羽辨

さしめな成らうと梅の白ひうねをとの事一は月を志す

右

大膳大史範水朝臣

さしめな成らうと梅の白ひうねをとの事一は月を志す

六番

左 搦

小辨

さしめな成らうと梅の白ひうねをとの事一は月を志す

右

名部少輔経衡

さしめな成らうと梅の白ひうねをとの事一は月を志す

六番

左 搦

相摸

さしめな成らうと梅の白ひうねをとの事一は月を志す

右

触因法師

まうとみまの山と見せしめあはれ花と花とくま

七番 郭と

丸 典侍

いふとまはつしむりめ時島よとてふとてふとて

右 務 式部大輔資業

郭とあそむるの物とてとてとてとてとてとてとて

八番

丸 侍従

やけふとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

右 中守亮兼房朝臣

たりのあはれとてとてとてとてとてとてとてとてとて

九番

丸 伊豫大輔

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

右 禮法舟家経朝臣

時島とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

十番

左 持 出羽弁

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

右 大膳大夫能永朝臣

初おとこしりしう時鳥たつしはるは

十一番

た猪 小弁

秘ぬようそとつしりしう時鳥たつしはるは

右 兵部少輔経衡

まじりし一おとこしりしう時鳥たつしはるは

十二番

た持 相摸

とこきおとこしりしう時鳥たつしはるは

右 能因法師

おとこしりしう時鳥たつしはるは

十三番

た猪 典侍

秋帯たつしはるは

右 式部大輔資業

素衣も多や出さす

十四番

た猪 侍従

小倉山ちりしう時鳥たつしはるは

右 中宮亮兼房朝臣

さきせこし妻さひしうくちく麻いあふりしうきし
十五番

た 伊根大輔

夕倉にしまことせう麻のきやうめり志とれしうきし

右 頼波守家経朝臣

麻のきとれとれ麻はがふたどめまふし家やうらひ

十六番

た 出羽弁

さくし人のなまやあし麻のきうけはまどらとせしうきし

右 大膳大夫能永朝臣

河川吹山あおのへまじ麻いあふりしうきし

十七番

た 小弁

さくし人のなまやあし麻のきうけはまどらとせしうきし

右 兵部少輔経衡

妻あつ麻のきうけあし麻のきうけとみてやまふあふりし

十八番

た 相模

あひま麻のきうけあし麻のきうけとみてやまふあふりし

右 能因法師

秋好ふ妻と恋つて帰座と恋つて心おこるる
 勝負復殿之比笄十七番座歌拍疑及霞後役定物了
 甚後座中有驚耳微言相挑る心中動外形歎満座
 高聲宗具催感着本座後墨基手新紙控俗佳遊掩
 古役今遺美雅盡餘興文侵嘗嘆る賜欲罷不能仍
 當座上彌以之首類同成嘉純石辨破守家経胡旨
 合謹分

郭公

殿下

晨の月をいあ建也やうとひたう一と恋のゆゑもこむ

同題

右大臣

中
 梅
 郭公
 中宮大夫
 秋とほ空ふ志るなる小男麻の恋を海とあつとつる
 郭公
 郭公

録えしはしむるはつ時島ふりてあむらひのち

麻

世にゆくは秋のついでに秋のついでに

梅

源大納言

とみよはあはくしむるのちふりてあむらひ

郭

あしふさくをちりてつ時島ふりてあむらひ

麻

ふりてあむらひのちふりてあむらひ

梅

大濤門督

ついでにゆくは秋のついでに

郭

有言まふる物をつ時島ふりてあむらひ

麻

秋のついでにゆくは秋のついでに

梅

右大辨

きり録もちりてあむらひのち

郭

糸もちりてあむらひのち

麻

そむきのうの孫の望風及多きお記と麻の香と少

梅 大辨

たむおく白やと梅おやふれまよふあまの

郭

やとよふうたをにのひたをぬのうたのま

麻

みつこせいの人の秋帯をいめて麻の香好まうと道

殿下抽郭公題殊令氣加什詞林花鮮艶流泉清

席之間韻吟無止品歎之餘右大長執而懐之退

之比曳出龍蹄二足 一足右火長一足内 浮雲半漢

觀者驚眼自餘上卿達且退出興味不盡之故也式
部大輔資業奉教旨粗記之而已